

【連携のあり方】

事例に基づく連携方法の確認

1

【平成26年3月版】

本課目のねらい

事例を基に、各職種の「気づき」や情報の共有、制度・地域資源の活用、役割分担について考える。

「連携のあり方」の流れ

13:00～13:05 グループワークの進め方について説明（5分間）

13:05～13:20 自己紹介（15分間）

アイスブレーキング『今、はまっていること』

13:20～13:40

（1）個人ワーク（20分間）

事例について、あなたが考える課題と、課題を解決するために

- ①自分の職種でできること ②他の職種に求めること、
- ③長期的な視野に立ち、今後取り組むべき課題と専門職の役割
- ④明日からできること

について、ワークシート1に記入する

13:40～13:55 休憩（15分間）

13:55～15:30

（2）グループワーク（80分間＋まとめ・発表準備15分間）

①～④まで、グループメンバーと共有して、お互いの職種を理解し、事例の課題を解決するために必要な多職種間の役割分担を検討してワークシート2に記入する。

15:30～16:00

（3）発表・まとめ（30分間）

各グループからグループ討議内容について発表・全体での共有・まとめ

グループワークの進め方

- グループワークに入る前に、司会と書記、発表者を決めましょう。
- 司会は、次の点に留意して進行をお願いします。

タイムキープ

全員発言

要所でのまとめ

グループワークを行う上での注意点

○批判はしない

○自由に発言する

○質より量

○連想と結合

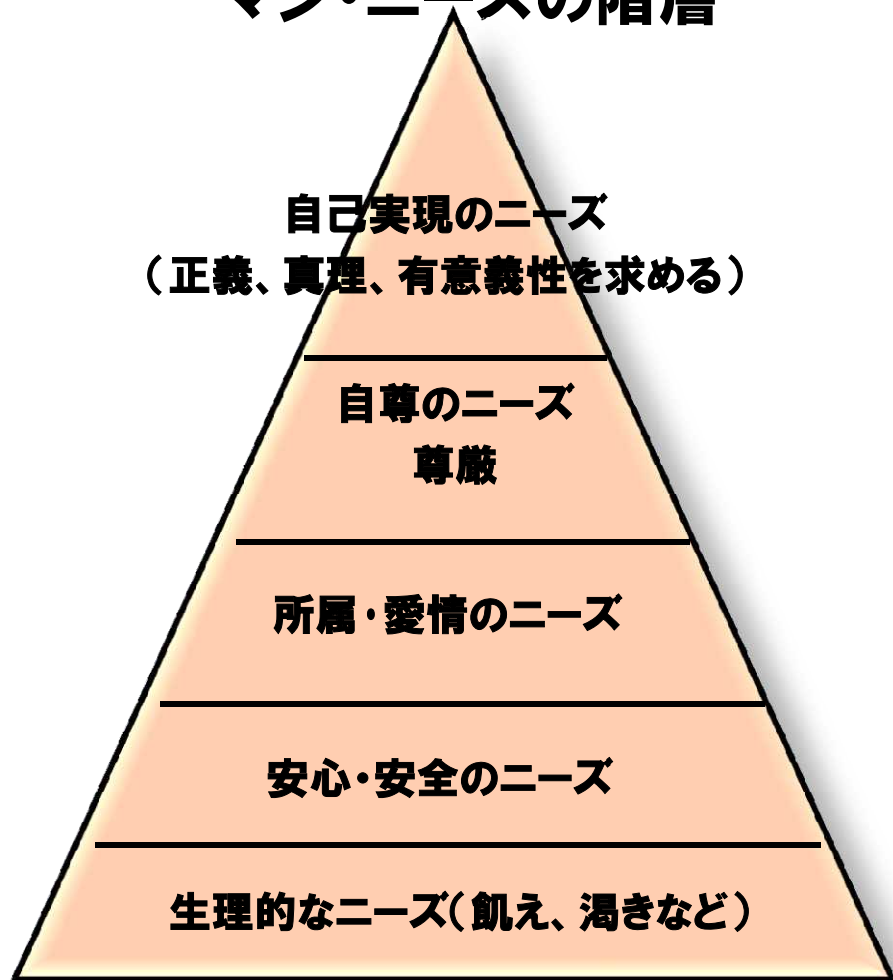
○マイナス思考を避ける

【参考】事例の共通理解の視点

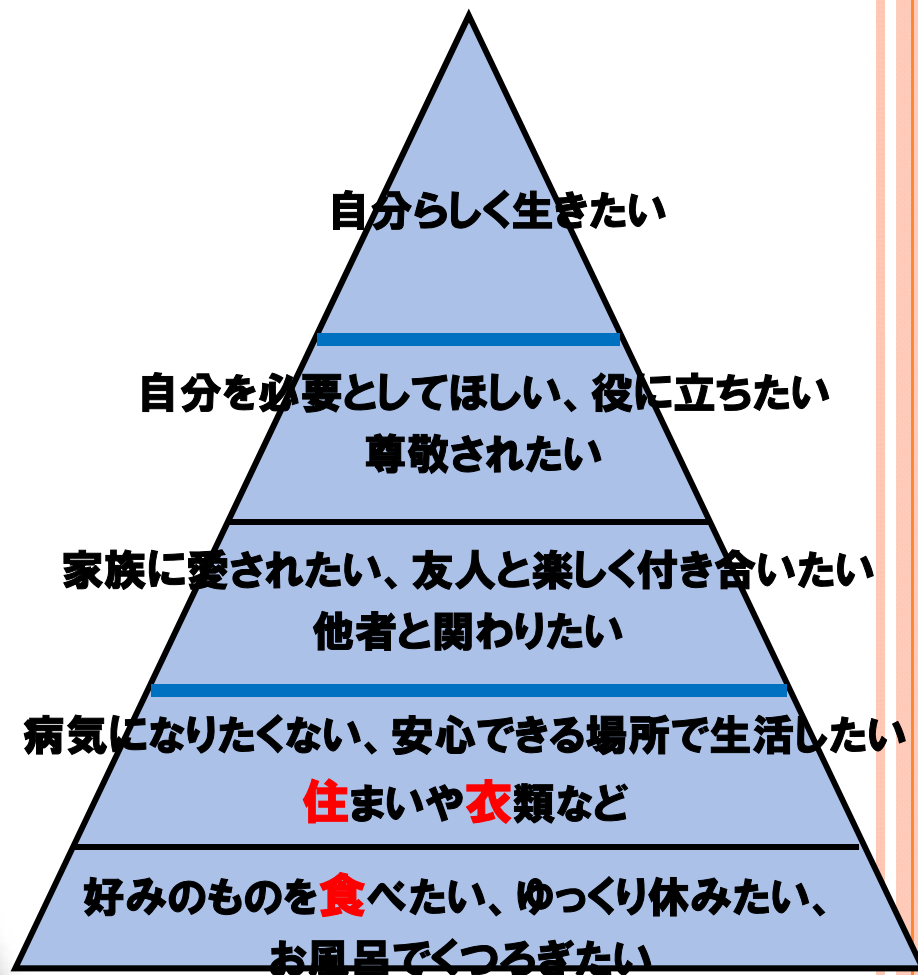
- 表面に現れている現象を医療的視点でとらえる
（原因は？ 可能性は？ リスクは？）
- 表面に現れている現象を介護・福祉的視点でとらえる
（原因は？ 可能性は？ リスクは？）
- 相互の関連・影響を見る
- 医療と福祉の両面から総合的に見る

【参考】ニーズ（課題）の整理の視点

A.H.マズローのヒューマン・ニーズの階層



その人らしさを知る視点



【参考】目標設定での視点

- 自己決定を支えること（自律の支援）
- 自分の力を最大限に使って暮らすことを支えること
（自立と自己資源活用の支援）
- 住み慣れた地域で、継続性のある暮らしを支えること
（暮らしの継続の支援）